

# 令和6年度 入学試験（一般 第1回）問題

## 国語

受験番号		氏名	
------	--	----	--

- 指示があるまで開かないこと。

令和5年11月11日(土) 9時00分 ~ 9時45分

### 【注意事項】

- 試験問題の数は25問です。
- 問題用紙及び解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入してください。  
解答用紙はマークシートと記述解答用紙の2枚あります。下記の記入例をみて記入してください。
- 解答は、指示に従いすべて解答用紙にマークしてください。問題用紙に記載しても無効です。  
なお、マークシートの解答用紙には解答欄が50問までありますが、25問からはマークしても無効です。
- 試験問題は四-【22】以外すべて5つの選択肢があります。質問に適した選択肢を選び、その番号を解答用紙にマークしてください。2つ以上マークした場合は無効となります。  
なお、試験問題の四-【22】については、記述解答用紙の問25に記入してください。

### 【解答用紙マークシート記入例】

フリガナ	セイ トウ ハナ コ	年	月	日	国語
氏名	聖 灯 花 子	5	11	11	

### 〔受験番号記入例〕

番 号										問					問					マーク例			
										1	①	②	③	④	⑤	11	①	②	③	④	⑤	良い例	悪い例
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	①	②	③	④	⑤	12	①	②	③	④	⑤	●	☑ ○ ●
①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	3	①	②	③	④	⑤	13	①	②	③	④	⑤		
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②														
③	③	③	③	③	③	③	③	③	③														
④	④	④	④	④	④	④	④	④	④														
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤														

※番号欄には、右づめで受験番号を記入し、該当部分の数字をマークしてください。

### 【記述解答用紙記入例】

受験番号
32001
氏名
聖 灯 花 子
評 定

令和六年度 入学試験（一般 第一回）問題（国語）

一次の文章を読んで、後の【1】～【7】に答えなさい。

十二月になると一日一日に時を刻む音が聞えるようである。ほかの月にはこんなことはないし、そんな感じのすることがあっても、十二月のそれほど脅迫感はない。いまこの原稿を書いているながら、私は現実とその時を刻む音を聞きその音の速度の早さとアとに身のちぢむのを覚えているのである。

ひるめしを食べに出て、市電で仕事場へ帰る途中、私の前へ若い人妻が立った。背中に赤児を背負い、五歳くらいの女の子をつれている。人妻は二十六か七、色のさめた赤いセーターにネズミ色のラシャのスカート。ウエーブの伸びた髪毛が乱れて、細おもての青ざめた顔はa、眉間には疲れたような、神経質なしわが深く刻まれている。おちつきを失なった眼は絶望した人のように、するどく一点をみつめていた。女の子は片手で母親のスカートにつかまり、片手に半分を紙で包んだキャンデーを持っていて、それをしゃぶりながら母に呼びかけるのであった。

「かあちゃん、おばちゃんに会えてよかったね、ねえかあちゃん」

若い母親は一点をみつめたまま答えない。「かあちゃん」とまた女の子は呼びかける「ねえ、おばちゃんがうちについてよかったね」、ねえとスカートを引張る。すると若い母親は邪険にスカートを振り放して、うるさいね、と邪険にいうのであった。

「うるさいね、黙っといでよ」おばちゃんはその母子とどうい関係の人であるかむろんわからない。若い母親は赤児を背負い、幼ない子をつれて「おばちゃん」を訪ねていったのである。おばちゃんはうちにいたし、彼女たちはおばちゃんに会った。女の子にはそれは「よかった」のである。しかしその若い母親にはよくはなかったらしい——十二月。私はここで自分の想像を組み立てようとは思わない。この母子の短かい対話そのものが、疑問の余地のないほどb事情を語っているのであって、しかも十二月であるということ、こちらにとって心臓へあいくちを突込まれるかに似た思いを致させられるのである。

小雨の降る日、やはりひるめしに出たときのことであるが、野毛という町の裏を四十がらみの男性が、ねんねこぼんでんで赤児をおぶって、カサもささずに歩いてきた。私はカサをさしており、ひるめしを食べるに足りる程度の懐中もあった。その男性はぶしょうひげが伸び、頭髪も百日かずらのように伸び、そして白茶けたようなむくんだ顔で、どこを見てもなくぼんやりと前方をcながら、なにも目的のないことを証明するような足どりで、雨の中をゆっくり歩いてゆくのである。それほどの降りではないが、雨の降っていることも気づかないほど、なにか思いあぐねているのだろうか。年配から察すると背中の子のほかに一人や二人の子があるであろう。妻の病氣、それとも妻がかせいでいるのか、などという想像をいささかも要しないほど、赤児を背負って雨の中を歩いてゆくその男の姿は、人間生活のもろさとはかなさを語っているようであった。

街をゆくと大売出し、タナざらい、残品サービスセール、全店半額、などという旗やビラが軒並にかかげられ、スピーカーや店員たちの客を誘惑しようとする声だぐる。時を刻む秒読みのような音であり、色であり、文字であって、人は最後の列車に乗りそこなうのではないかというようなせかせかした不安定な気分にとらわれるのである。こういう街の中を一人の紳士が子犬をつれて歩いていた。ぼろぼろになった古洋服の上着に、ボタンがないものだからなわの帯をしめ、半ば裂けて布地のひらひらするズボンにゾウリをはいている。ズボンのさげ目からはあかだらけの毛ズネが見えるし、えり首などもあかです黒く、それで髪毛だけはかりたてで油が光っている。これらの紳士社会では十円玉一個で調髪する専門家がいるそうであるが、この紳士も正月用に調髪したものであろう。彼は師走の街の切迫したけしきを横眼にながめながら、腕組みをしてゆうゆうと歩いてゆく。そのあゆみは彼が時を刻む音の圏外にいることを①と示すものであり、大みそかなんぞくそくらえという意気のあらわれであった。

子犬はその主人の足にひき添って歩きながら、愛のこもった熱心な眼で主人を見あげ、またちよこちよここと歩き、そして熱心な愛のこもった眼で主人を見あげ、ときたま主人が見おろすと、まるでお互いの愛をたしかめ得たか

のようにしっぽを力いっぱい振り、主人はまたゆうぜんと歩いてゆくのであった。血まなこになって活動する師走の街にあって、この紳士がどうしてこのように超然としていることができるか、などということをおうとは思わない。私はただ㊦のため息をもらしながら、この誇り高き紳士とその愛によってむすばれた子犬とのあとを、かなりながいあいだついていった、ということ告白するだけである。

いま仕事部屋の外で宣伝カーなるものがわめいている。いよいよ押し詰まってまいりました。私はなんのためともなくぞっとし、机の前で身をちぢめる。私は赤児を背負って雨にぬれながらゆく男であり「おぼちゃん」はうちにて会うことはできたけれど、目的ははたされずに子をつれてむなく帰る若妻に似ているのである。これももし舞文曲筆などという人があったら、その人こそ年末の秒読みを感じることはない、幸福なしかし恵まれざる楽道家というほかはないでしょう。そういう人たちはすてにもうめてたいので、めてたいと申し上げても皮肉にはならないと思う。

(山本周五郎『年の瀬の音』)

- 【1】 空欄㊦㊧㊨に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 1 2 3】
- |   |   |      |      |      |      |      |
|---|---|------|------|------|------|------|
| ① | ㊦ | ① 恫喝 | ② 威圧 | ③ 圧迫 | ④ 恐喝 | ⑤ 威嚇 |
| ② | ㊧ | ① 自然 | ② 傲然 | ③ 超然 | ④ 敢然 | ⑤ 歴然 |
| ③ | ㊨ | ① 羨望 | ② 絶望 | ③ 希望 | ④ 失望 | ⑤ 熱望 |

- 【2】 傍線部「顔は」に続く(a)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 4】
- |   |        |       |        |       |        |
|---|--------|-------|--------|-------|--------|
| ④ | ① ひきつり | ② ゆがみ | ③ こわばり | ④ たわみ | ⑤ かたまり |
|---|--------|-------|--------|-------|--------|

- 【3】 傍線部「事情を」の前に置く(b)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 5】
- |   |         |          |           |          |         |
|---|---------|----------|-----------|----------|---------|
| ⑤ | ① あけすけに | ② わざとらしく | ③ これみよがしに | ④ あからさまに | ⑤ こわだかに |
|---|---------|----------|-----------|----------|---------|

- 【4】 傍線部「前方を」に続く(c)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 6】
- |   |        |       |        |       |        |
|---|--------|-------|--------|-------|--------|
| ⑥ | ① 見さだめ | ② 見すえ | ③ 見きわめ | ④ 見つめ | ⑤ 見まもり |
|---|--------|-------|--------|-------|--------|

- 【5】 傍線部「声が」に続く(d)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 7】
- |   |          |         |          |         |          |
|---|----------|---------|----------|---------|----------|
| ⑦ | ① からみついて | ② かみついて | ③ へばりついて | ④ はりついて | ⑤ くらいついて |
|---|----------|---------|----------|---------|----------|

- 【6】 作者・山本周五郎の作品として正しくないものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 8】

- |   |            |             |           |
|---|------------|-------------|-----------|
| ⑧ | ① 『赤ひげ診療譚』 | ② 『樅ノ木は残った』 | ③ 『青べか物語』 |
|   | ④ 『山の音』    | ⑤ 『季節のない街』  |           |

【7】波線部のように記した筆者の思いとして、ふさわしいと考えられるものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問9】

- 9
- ① 母子や赤児連れの男性など、心に重く残ることが続き、深い感慨の伴う年の瀬になった、という思い。
  - ② 自分は何とか年を越せそうだが、世間には様々な困難を抱える人がいるとしみじみ感じた、という思い。
  - ③ 母子や赤児連れの男性に自らを重ねつつ、年の瀬を迎える真の意味を改めて問い直さねば、という思い。
  - ④ 正月を迎えられるか不安な人々がいる一方、何も感じないめでたい人の何と多いことか、という思い。
  - ⑤ 母子や赤児連れの男性に比べるとまだ自分は恵まれており、そのことにもっと感謝せねば、という思い。

二次の間【8】～【12】の文章中、カタカナで記された言葉の漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【8】「彼女の発言に、その場にいた全員がリツゼンとした。」【解答欄は問10】

10 ① 律然 ② 慄然 ③ 率然 ④ 立然 ⑤ 栗然

【9】「その書類は、シヨテイの場所に戻しておくこと。」【解答欄は問11】

11 ① 所定 ② 所程 ③ 諸定 ④ 所提 ⑤ 初定

【10】「ついに、バンサク尽きてしまった。」【解答欄は問12】

12 ① 版策 ② 番策 ③ 万策 ④ 判策 ⑤ 盤策

【11】「気がつくと、目の前にキタイな男が立っていた。」【解答欄は問13】

13 ① 忌態 ② 奇怠 ③ 着態 ④ 奇体 ⑤ 奇態

【12】「彼の言動は、私へのイシュ返しに他ならない。」【解答欄は問14】

14 ① 意種 ② 意守 ③ 意主 ④ 意趣 ⑤ 意取

三次の問【13】～【17】の作品と作者の組み合わせで、正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【13】 【解答欄は問【15】】

- |          |       |
|----------|-------|
| ① 『痴人の愛』 | 菊池寛   |
| ② 『浮雲』   | 野上彌生子 |
| ③ 『飢餓海峡』 | 松本清張  |
| ④ 『迷路』   | 佐多稲子  |
| ⑤ 『破戒』   | 島崎藤村  |

【14】 【解答欄は問【16】】

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| ① 『恋』           | 小池真理子 |
| ② 『チーム・バチスタの栄光』 | 中村文則  |
| ③ 『氷点』          | 角田光代  |
| ④ 『神様のカルテ』      | 東野圭吾  |
| ⑤ 『君の膵臓を食べたい』   | 瀬尾まいこ |

【15】 【解答欄は問【17】】

- |              |       |
|--------------|-------|
| ① 『ペロ出しチョンマ』 | 坪田譲二  |
| ② 『泣いた赤鬼』    | 宮沢賢治  |
| ③ 『和太郎さんと牛』  | 新美南吉  |
| ④ 『赤い蠟燭と人魚』  | 松谷みよ子 |
| ⑤ 『杜子春』      | 井上靖   |

【16】 【解答欄は問【18】】

- |               |             |
|---------------|-------------|
| ① 『アンナ・カレーニナ』 | エミリー・ブロンテ   |
| ② 『ペスト』       | ヘルマン・ヘッセ    |
| ③ 『嵐が丘』       | ジェーン・オースティン |
| ④ 『欲望という名の電車』 | テネシー・ウィリアムズ |
| ⑤ 『ジェーン・エア』   | レフ・トルストイ    |

【17】 【解答欄は問【19】】

- |               |                |
|---------------|----------------|
| ① 『大きな森の小さな家』 | ルーシー・モード・モンゴメリ |
| ② 『少女ポリアンナ』   | エレナ・ポーター       |
| ③ 『エルマーの冒険』   | ルイス・キャロル       |
| ④ 『ぼくを作ったもの』  | ハーマン・メルヴィル     |
| ⑤ 『メアリー・ポピンズ』 | ジーン・ウェブスター     |

四次の文章を読んで、後の【18】～【22】に答えなさい。

ある町を歩いていたら、「おいてけぼり」という喫茶店の看板が目に入った。覗いてみると、なかなか綺麗な店である。

「おいてけぼり……か、しゃれた名前ね」と、ちょっと誘われるものを感じたが、常に珈琲の飲みすぎであるから、寄らないでそのまま通りすぎた。

世の中から、おいてけぼりをくって、あるいはみずから出世街道をさっさと下りて「こんな店を始めたよ」ともとれるし、恋人どうし待ち合せたって、「いずれはおいてけぼりをくうよ」という ア も感じられるし、それとも銭だけはおもかく「おいてけ！」ってことかな……などと命名者の心境をあれこれ想像したのである。

以前、新聞に連載されていた「江戸言葉」というのが切り抜いてあって、その中に「おいてけぼり」というのもあった。それによると、江戸時代、今の錦糸堀付近で魚を釣って帰ろうとすると、池の中から「置いてけ！ 置いてけ！」という声があるので、人はびっくり仰天、獲物を置いて逃げ帰る。

「置いてけ堀」は「江戸の伝説本所七不思議の一つ」と言われた民話からきたもので、それから置き去りにすること、されることを「おいてけぼり」とも言うようになったのだそうだ。江戸時代の俗語が今に生きているわけである。レストランにしろマンションにしろ、わけのわからない横文字ばかりで、いったいどこの国かと思うばかりだが、すっかりした日本語の店名があったりすると、それに敬意を表して、味のほうは少々我慢しようとなったりする。そう言えば「まあまあじゃん」という店もあった。

江戸言葉には、女を表現するのにも、おもしろいのがいろいろあって、垢ぬけた女を「洪皮のむけた女」と言ったりしたのは、うまいと思う。栗御飯のための栗をむく秋、いつも成程……と思いついてしまふ。

おきちゃん

おてんば

おちゃっぴい

じゃじゃ馬

こんな言葉を拾ってゆくと、江戸の人々はぐずぐず、しおしおとした女よりも、潑刺とした張りのある女を、ひやかしつつ愛したのではなかったか……と思われてくる。

電車のなかで或るおばあさんが連れのひとに「家の嫁は、あばずれであばずれで」とこぼし、その抑揚がおかしかったので、おもわず吹き出しそうになったが、憎々しげに言ったのに「あばずれ」という、これも江戸言葉が、それ自身ユーモラスでもあるので、さほど毒々しくは聞えなかった。

「きんぴら娘」というのもあって、これは当時の浄瑠璃のヒーロー、怪力無双の金平きんぴらにちなんでつけられたのだそうで、まあ、「豪傑娘」というくらいの意味らしい。丈夫で元気のいいものにはすべて「きんぴら」なる接頭語を冠して楽しんだわけだが、「きんぴら娘」は聞いたことがないから、死語になってしまったのだろう。けれど「きんぴらごぼう」のほうは抜きさしならぬ形で、ばっちり残った。

現在も沢山の俗語、流行語がさまざまの勢いで生まれつつあるが、江戸時代のそれのように、二百年も三百年も後にまで残ってゆくものがあるのだろうか？

もうだいたいぶ前のことになるが「ハレンチ！」というのがやったことがあって、昔だったら「破廉恥なヤツ」と言われたら死んでしまわねばならないほど屈辱的な罵倒語だったろうに「ハレンチ！」のほうは「やったぜ！」みたいな称讃語として使っていた。意味をひっくりかえしたところがおもしろく、人目ばかりを気にする日本人の感覚に ① くらわしてもいるようで、これは新たな語彙のなかに入るかと思っただけで、あっけなく水泡のように消えてしまった。

いずれにしても、言葉の流行と、ファッションの流行とは、どこかで通いあうものを持っている。つまり馬鹿馬鹿しいところ、軽佻 \* などところ、そして蘇生力、復活力の旺盛なところ、くりかえしの妙などが。

だからと言って、はやりすたりもなく、行儀よろしく、静まりかえっているばかりが能でもなく、ときどきはギョッ！ とさせられたりさせたりして人は生きてゆくのだ。

そのへんのところになかなか微妙で、言葉とファッション、二つながらにあまりにも目まぐるしい流行に、どこまで抵抗できるか、どのあたりで誘惑されてしまったか、自身を素材に観察してみるのは、おもしろい。

ミニ全盛のとき、私は殆んどのスカーートを切ってしまった、今後悔することしきり、気に入っていたスカーートの裾をまたぞろ出来るだけ伸ばして、ヘムなどつけている自分が哀れになる。

断乎として切らず、すすんでおいてけぼりをくい、一サイクル廻るのを待った「きんぴら夫人」も身近に居るのであった。

(茨木のり子『おいてけぼり』)

【18】 空欄⑦①に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 20 21】

⑦ ①虚しさ ②冷笑 ③皮肉さ ④諦め ⑤当て擦り

① ①痛棒 ②天罰 ③処断 ④鉄槌 ⑤制裁

【19】 空欄\*に該当する語を、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 22】

\* ①符伯 ②浮薄 ③布帛 ④夫伯 ⑤不泊

【20】 作者・茨木のり子と明らかに異なる時期に活動をした詩人を、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 23】

①石垣りん ②清岡卓行 ③吉野弘 ④大岡信 ⑤金子みすゞ

【21】 作者・茨木のり子の作品集として正しくないものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 24】

①『見えない配達夫』 ②『鎮魂歌』 ③『自分の感受性くらい』  
④『表札など』 ⑤『倚りかからず』

【22】 筆者は波線部で、読者にどんな思いを伝えたかったのか。筆者の思いを、五十字で述べなさい。【解答欄は別紙問 25】